

# 美術科教育学会通信 No.97 2018.02.24

□巻頭言 □第40回滋賀大会案内（最終案内） □第40回滋賀大会案内【研究発表一覧】

□リサーチフォーラム報告 □本部事務局より

## 巻頭言

### いま、*Art Education*を読む意義とは

副代表理事（事業部） 山木朝彦（鳴門教育大学）

#### 1. 1948年に産まれた *Art Education*

美術科教育学会の会員にも1948年生まれの人がいることだろう。今年で70歳を迎える方々である。わたしは、この年代の人々が歩んできた激動の歴史について想いを馳せ、その経験を伺いたいという気持ちに駆られる。もちろん、この年代よりも前のジェネレーションの方々には、いっそう強く、日本の美術教育の歩みについて正直なところを伺いたいと思う。

おそらく、現代における表面的な豊かさの背後にある社会状況の危うさについて、あるいは、現代の教育の課題と展望について、1950年代から90年代生まれの教師・研究者とは、異なる卓見をお持ちなのではないかという期待を抱くからだ。

歴史的な文献についても同じような想いを抱きながら頁を繰ることがある。この時期に美術教育に貢献しようと努めた著者たちは、その論文やエッセイのなかで、いかなる目標を描き、どのような現状認識から論を展開していたのか、時代を遡り、彼女ら/彼らの言葉を真摯に受け止めてみる。そして、著者の目になって、当時のことを考えてみる。あるいは、同じ瞳を借りて、今を見つめ直してみる。そうすると意外な発見や反省や展望が湧き上がることがある。

冒頭、唐突に掲げた1948年という年は、今年70年を迎えた米国の *Art Education* 誌が創刊された記念す

べき年である。これは、全米美術教育協会（NAEA: The National Art Education Association）の公式ジャーナルであり、教育実践に理論的な裏付けを与えることを追究してきた美術教育の専門誌である。その内容については後に触れるとして、まずはこの媒体へのアクセスの方法について見てみよう。

#### 2. *Art Education* 誌の日本での大学附属図書館の購入状況と電子ジャーナル・アーカイブ

かつては、52館にも及ぶ全国の国公立の大学附属図書館にて、継続的に購入されていたが、おそらく大学運営費の大幅な縮減が主要な原因となり、現在継続中の図書館は、国立大学では、東京学芸大学、信州大学、山梨大学、三重大学、和歌山大学、山口大学、兵庫教育大学、鳴門教育大学の8大学、私立大学では、多摩美術大学、明治学院大学、関西学院大学、常葉大学の4大学のみとなってしまった。[上記はCiNiiによる検索結果]

もちろん、この雑誌の購入大学数の縮減には、エブスコ（EBSCO）という電子ジャーナル・アーカイブを購入している大学では、研究者が *Art Education* の論文を閲覧可能になっており、この電子ジャーナル化への移行も、雑誌本体の継続購入停止に影響したものと思われる。しかし、エブスコやスプリンガー（Springer）

という学術雑誌の巨大アーカイブそのものの契約額は高額であり、しかも、学内アクセスのみ可能という状況である。これでは、更なる運営費縮減に晒されたときに、この利用形態を維持できない大学が出てくるのが懸念される。また、学術上の成果の社会への還元という観点から言えば、誰もが閲覧可能な雑誌収録とは異なる閉鎖的な環境である。したがって、本来は雑誌そのものの継続的購入が理想なのである。

かつては、米国の美術教育の動向を知るための基本文献として、多くの大学附属図書館の開架式閲覧室に配架されていた *Art Education* の最新号が、大学の運営経費削減と電子ジャーナル化の影響によって姿を消してしまった。残念というほかない。

### 3.創刊号から第5巻までの主要記事

記念すべき創刊号(1948年1-2月号)は、わずか4頁しかない、実質的にはリーフレットのようなものである。コロンビア大学のジークフェルド(E. Ziegfeld)が全米の各州・各郡・各市に存在する美術教育に関わる教員組織の統一的組織としてのNAEAの役割を高らかに謳い、この誌面には、「多種多様なものの見方、思想、方法、ニュース、意見を表明する十分な場があるだろう」と期待を表明している。第2号ではNAEAの会則が、第3号では、スタンフォード大学の芸術学部長が、日本の構成教育にも似た、いわゆる造形要素を中心とした造形の基礎技能を獲得するための広義のデザイン教育の重要性を説き、第4号ではMassachusetts College of Artの学長がインダストリアル・デザインの重要性を説いている。第4号では、人種や文化背景を異にする社会集団間での教育における教育媒体としてのアートの重要性についての論説が、第2巻1号(1949年1-2月号)では巻頭の論説を40代半ばのヴィクター・ローウェンフェルド(V. Lowenfeld)が書いている。ペンシルヴァニア州立大学の教授に就任してからまだ3年が経たない時期の投稿である。ここでは水彩絵の具が優れた描画材料だと認めた上で、8歳と12歳では、その発達段階の違いによって、児童にとって不適切な媒体にも、適切な媒体にもなり得ることを論じている。2巻2号ではバルチモア市のベテラン教師がアートに関する専門的な知識が欠如した小学校の指導や中学校・高校の現状を説明した後、適切な情報と活動が保証される授業設計が求められると論じている。情報は、一般的な知識と美術に必要な専門的な知識で構成され、活動には、計画的な制作と創造的な制作のバランスが重要だとしている。また、別の頁では編集責任者がアメリカの教師教育の問題点を指摘し、医師養成を見倣うべきだと提言している。1951年の4巻2号においては、世界的に著名なデューイ哲学研究者のアーウィン・エドマン(Irwin Edman)が豊かな都市生活の実現やいわゆる陶冶論の観点から美術教育の意義を称揚している。この頃になると内容の厚みも増

し、論説や書評を掲載した十数頁の専門誌に成長している。4巻4号には、英国のブリストル市で1951年7月7~12日に開催されたいわゆるユネスコ・セミナーについて、コロンビア大学のジークフェルド(E. Ziegfeld)による正確な報告が5頁にわたって掲載されている。1952年の5巻2号には、再びローウェンフェルドが登場し、コンクールなどのコンテストが児童にもたらす影響について詳しく論じている。同年11月発行の5巻5号には、地域の社会教育機関や組織との連携による美術教育の発展に関する論文もある。

### 5.教育実践と理論との総合:*Art Education*の課題意識

見てきたように、全米の美術教育者の有志が加入している巨大組織であるNAEAの研究誌である*Art Education*は、創刊当時から教育実践現場の教育改善を願う教師達に支えられた研究誌であり、実践と理論の総合を目指しており、その姿勢は現在も貫かれている。その例は、最近の*Art Education*誌でも確認することができる。例えば2017年3月に発行された70巻2号の「リサーチカルチャーとコミュニティに光を」(Shedding Light on Research Culture and Communities)という特集は、教育改善に資する教師のためのリサーチとは何かという問題について対峙し、解明しようとする姿勢が顕著に現れている。

なかでもペンシルヴァニア州立大学のサリバン(G. Sullivan)らが寄稿した「リサーチの可能性、実践の見通し」(The Possibilities of Research - The Promise of Practice)は、教育実践に寄与する研究として、(1)人文科学的リサーチ、(2)諸芸術及び文化リサーチ、(3)教育実践者と芸術[実践]家による実践者リサーチを挙げ、いずれも美術教育の存在理由を明らかにし、認識の変化を促すアプローチだとしている。

### 6. 転換期の美術教育研究にとって示唆的な *Art Education*

教科教育学の発展に寄与するテーマを追究し、その学的研究成果を修士論文というかたちで残す修士課程から、高度専門職業人の養成に特化した専門職学位課程への転換を促す国の方針によって、博士課程を含む従来型の研究者養成はおそらく困難な状況を迎えるであろう。そのときこそ、現在までに積み上げられてきた研究テーマの広がり確保しつつ、教育実践の改善に貢献する教科教育学研究のモデルについて再考し、研究内容を深化させるべきであろう。

全米の美術教員組織であるNAEAが総力をあげて教育実践の理論的な裏付けを探究している*Art Education*は、*Studies in Art Education*とともに上記の方向を目指す教育研究にとって、きわめて示唆的な研究媒体となるはずである。比較的平易な英文なので、美術科教育学会に所属する全ての会員と、これから教職大学院を担う教員にお勧めしたい専門誌である。

# 滋賀大会(最終案内)

## 第40回美術科教育学会滋賀大会

大会実行委員長 新関伸也(滋賀大学)



紫式部が源氏物語を起筆した寺、花の寺として有名な大本山石山寺  
※石山寺まで：京阪バス(大学行きバス路線)「石山寺山門前」下車

### ■ 大会テーマ

#### 「学習指導要領改訂と美術科教育のゆくえ

#### — 学会40年の歩みとこれからの課題 —

ごあいさつ

第40回美術科教育学会 滋賀大会を滋賀大学教育学部(滋賀県大津市)で開催いたします。今大会では研究発表、研究部会、総会に加え、大会テーマに基づく2つの講演と学習指導要領改訂及び学会の課題をとりあげたシンポジウムを企画しています。

多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

#### 第40回美術科教育学会滋賀大会：

<http://artedu-shiga.com>

#### ■ 主催：美術科教育学会

協力：日本美術教育学会 大学美術教育学会

#### ■ 会期：2018年3月29日(木)・30日(金)

#### ■ 会場：滋賀大学教育学部

(〒520-0862 滋賀県大津市平津2-5-1)

#### ◇理事会 2018年3月28日(水)

【滋賀大学大津サテライトプラザ】

※JR大津駅前 日本生命大津ビル4階

12:00～ 学会誌編集委員会

15:00～ 理事会 ※17:30 終了予定

#### ◇大会 第1日目 2018年3月29日(木)

【滋賀大学教育学部研究棟(D棟)、大講義室】

09:00～ 受付(D棟)

09:45～ 研究発表I

11:30～ 昼休み

12:20～ 開会式

12:30～ 講演I

13:30～ 講演II

14:30～ シンポジウム

16:00～ 三学会連携『美術教育ハンドブック』刊行について

16:30～ 研究部会交流会(8分科会)

18:10～ 懇親会(教育学部遊心館) ※20:10 終了予定

#### ■ 講演I

演題：「戦後美術教育史と美術科教育学会

— 戦後の人間像の克服 —

講師：金子 一夫 氏(茨城大学特任教授)

#### ■ 講演II

演題：「子どもたちの〈時間〉と学習指導要領」

講師：西野 範夫 氏(元 上越教育大学教授)

#### ■ シンポジウム

演題：「学習指導要領改訂と美術科教育のゆくえ

— 学会40年の歩みとこれからの課題 —

シンポジスト：

・水島 尚喜 氏(聖心女子大学教授)

・奥村 高明 氏(聖徳大学教授)

・三澤 一実 氏(武蔵野美術大学教授)

司会：新関伸也(滋賀大学教授)

#### ◇大会 第2日目 2018年3月30日(金)

【滋賀大学教育学部研究棟(D棟)、大講義室】

09:00～ 受付(D棟)

09:30～ 研究発表II

11:55～ 総会

12:45～ 昼休み

13:45～ 研究発表III ※15:25 終了予定

#### ■ 学会参加費、懇親会費など ※事前申込みがお得です

##### (1) 学会参加費

参加費	事前申込	当日申込
正会員	4,500円	5,000円
非会員(大学院生を除く)	5,500円	6,000円
大学院生 (社会人を除く、正会員を含む)	2,500円	3,000円

※「大学美術教育学会」又は「日本美術教育学会」の会員の場合も本学会会員と同様に、正会員の料金で参加できます。その旨を、払込用紙の通信欄にご記入ください。

## (2) 懇親会費

参加費	事前申込	当日申込
正会員・非会員	5,000円	5,500円
大学院生	3,500円	4,000円

※懇親会の料理を用意する都合上、事前申し込みにご協力ください。

※懇親会終了後、会場前から JR 石山駅へ臨時直通バス(京阪バス、運賃 230 円)を運行予定です。

## (3) 昼食・弁当代 (※事前予約のみ受付)

大会 1 日目: 3 月 29 日 (木)	1,000 円
大会 2 日目: 3 月 30 日 (金)	1,000 円

※大学徒歩圏内には、レストラン・喫茶店等がありません。弁当のご注文をお勧めいたします。

※弁当注文以外の方は、昼食をご持参いただくことをお勧めいたします。

## ■ 参加登録・申し込み

### (1) 事前参加登録・申し込み

事前参加申込みを希望される方は、下記の要領をご確認頂き、**第 40 回美術科教育学会滋賀大会のホームページ** (<http://artedu-shiga.com>)、

### 「オンライン大会登録受付システム」

(<https://www.e-naf.jp/meeting/ENAF/artedu40/member>) からお申込みください。

※登録後、「参加登録受付メール」が届きます。

※入金締切日(2/28)までにご入金いただけない場合、事前参加登録は自動的にキャンセルされます。

※滋賀大会の事前参加申込については「オンライン大会登録受付システム」を使って行いますが、参加申込については当日でも可能です。

### (2) 事前参加申し込み締切

**2018 年 2 月 28 日 (水) 24 時**

**事前参加登録及び参加費入金 締め切り**

オンラインシステムでの登録は、申込期限の時間内での入力完了が必要です。余裕をもって登録してください。ご不明な点は、大会システムサポートデスクまで、電話・メールにてご相談ください。

学会年会費や入会については、学会本部事務局支局(株 ガリレオ)にお問い合わせください(通信巻未参照)。

### (3) オンライン登録システムに関する問い合わせ

(※事前参加申込について)

◇ 中西印刷株式会社 第 40 回美術科教育学会  
滋賀大会システムサポートデスク

Tel: 075-415-3661

E-mail: [artedu40@nacos.com](mailto:artedu40@nacos.com)

※電話対応可能時間(平日 9:30~16:00)

## (4) 大会に関する問い合わせ

◇ 第 40 回美術科教育学会滋賀大会実行委員会  
(事務局長) 村田 透

Tel: 077-537-7774 (研究室)

E-mail: [artedu@edu.shiga-u.ac.jp](mailto:artedu@edu.shiga-u.ac.jp)

## ■ 滋賀大学教育学部までのアクセス

※滋賀大会ホームページ会場案内

<http://artedu-shiga.com/guide.html>

### ◇ 各地の主要駅から大学の最寄り駅:

JR 東海道線(琵琶湖線) 石山駅まで

- JR 大阪駅から、新快速にて約 45 分。
- JR 京都駅から、新快速にて約 15 分。
- JR 名古屋駅から、京都駅まで新幹線にて移動の後、在来線に乗り換え。合計約 70 分。
- JR 金沢駅から、京都駅まで特急電車にて移動の後、在来線に乗り換え。合計約 2 時間 40 分。

### ◇ 最寄り駅 (JR 石山駅) から大学までバス移動

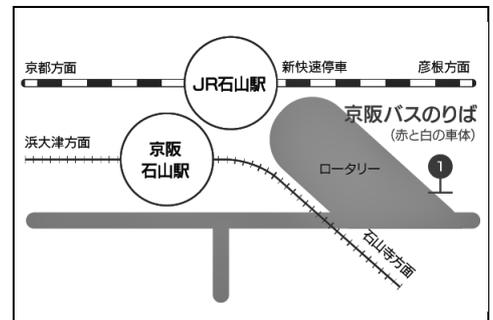
※片道 230 円 (ICOCA、PiTaPa 使用可)

※出発: 石山駅南口バスターミナル「1 番のりば」

※時刻表案内 (京阪グループ バスナビ)

<https://busnavi.keihanbus.jp/pc/diagram>

系統	行先	バス停	所要時間
2	「新浜」	滋賀大前	乗車約 15 分、 バス停より徒歩 8 分。
4	「大石」		
52	「南郷中学校・新浜」、 「南郷中学校・南郷二丁目東」	滋賀大西門	乗車約 15 分、 バス停より徒歩すぐ。
53	「千寿の郷・南郷二丁目東」		
54	「南郷中学校・大石」		



【バス停】

JR 石山駅南口  
「1 番のりば」

## ■ 宿泊に関して

ホテルは、JR 東海道線(琵琶湖線)の各駅(大津駅、膳所駅、瀬田駅、石山駅、南草津駅、草津駅など)周辺や京都市に多数あります。観光客の急増により、宿泊が大変困難です。早めのご予約をお勧めいたします。

写真提供: (公社) びわこビジターズビューロー

# 研究発表 I 【第1日目 3月29日(木) 09:45~11:25】

	時間	A会場 (第1講義室)	B会場 (第2講義室)	C会場 (第5講義室)	D会場 (第6講義室)	E会場 (第7講義室)	F会場 (第9講義室)	G会場 (演習室2)	H会場 (環境教育演習室)
1	09:45 ~ 10:15	西尾正寛 (畿央大学)、 鴨谷真知子 (畿央大学現代教育研究所)、山田芳明 (鳴門教育大学)  図画工作科における相互交流システムの開発と学習支援 II	保富仁之 (和歌山県立田辺高等学校)、湯川雅紀 (関西福祉科学大学)、上田音々(田辺市立新庄第二小学校)、壺井彩絵(田辺市立稲成保育所)  [絵画・以降]の時代に構想する絵画教育の題材開発ー幼児の造形活動・小学校図工科への応用可能性についてー	藤原逸樹 (安田女子大学)  造形遊び実施上の阻害要因に関する一考察	笹原浩仁 (福岡教育大学)  子どもたちのための楽器づくりの研究	松浦藍 (岡山市立旭東中学校)  生徒の絵画主題の捉え方に色彩の感情効果が与える影響についての一考察	小田恵子 (神戸市立義務教育学校港島学園小学部、神戸市立外国語大学大学院)  子供達は図画工作科の授業をどのように経験したのか?		
2	10:20 ~ 10:50	阿部宏行 (北海道教育大学岩見沢校)  なぜプロセスが重要なのか?ー造形活動と資質・能力の発揮ー	寺田幸哉 (北九州市立筒井小学校)  「感動体験」に着目した図画工作科の題材設定ー「木の粉粘土」の可能性ー	蝦名敦子 (弘前大学)  子どもの造形活動と空間に関する一考察ー造形遊びと絵や立体題材の比較を通してー	小池研二 (横浜国立大学)  国際バカロレアでの美術の学びについてーATL (Approaches to learning) の理論を中心にー	山田猛 (東京学芸大学附属竹早中学校)  日本の国際協力における基礎教育分野ー造形美術教育の技術移転に関する一考察ー	松岡宏明 (大阪総合保育大学)  『鑑賞学習ルーブリック&ガイド』の作成とその活用実践	松尾豊 (前・高岡第一高校)  納富次郎と美術教育(2)ーアートの公共性と美術・工芸教育上の価値ー	岡田匡史 (信州大学)  『信貴山縁起絵巻(12世紀後半)』との比較を伴う、ベラスケス「大修道院長聖アントニウス(1634年頃)」の読解的鑑賞の試み
3	10:55 ~ 11:25	三根和浪 (広島大学)  図画工作科における「わたし」と平成29年版小学校学習指導要領解説図画工作編の検討	吉田奈穂子 (筑波大学大学院)  中国成都ヴァルドルフ学校における造形教育の実際と課題ー蜜蝋粘土を用いた授業に着目してー	新井哲夫 (明治学院大学)  戦前・戦時における久保貞次郎と美術教育ー児童画との出会いと美術教育思想の形成過程を中心にー	後藤保紀 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)  国際バカロレアでの美術の学びについてーATL (Approaches to Learning) の実践を中心にー	森田亮 (筑波大学大学院)  重複障害児の美術科指導における目標設定の方法に関する質的研究	山口喜雄 (元 宇都宮大学)  20世紀後半以降の日本美術科教科書の中 学1年本における巻頭文の検討	春野修二 (北九州市立二島中学校)、谷口幹也(九州女子大学)  米谷健+ジュリアの作品を主体とした中学校での授業展開例	立原慶一 (宮城教育大学)  比較鑑賞法における美的感受、解釈、価値判断ークロード・モネ作『散歩、日傘をさす女』とエミール・クラウス作『昼休み』を対比させてー

	時間	A会場 (第1講義室)	B会場 (第2講義室)	C会場 (第5講義室)	D会場 (第6講義室)	E会場 (第7講義室)	F会場 (第9講義室)	G会場 (演習室2)	H会場 (環境教育演習室)
研究部会	16:30 ~ 18:00	授業研究部会	工作・工芸領域研究部会	現代<A/E>研究部会(拡張された<美術/教育>の基本構造と可能性を考えるための部会)	インクルーシブ美術教育研究部会	美術教育史研究部会	乳・幼児造形研究部会	アートセラピー研究部会	高校美術研究部会

# 研究発表Ⅱ 【第2日目 3月30日(金) 09:30~11:45】

	時間	A会場 (第1講義室)	B会場 (第2講義室)	C会場 (第5講義室)	D会場 (第6講義室)	E会場 (第7講義室)	F会場 (第9講義室)	G会場 (演習室2)	H会場 (環境教育演習室)
1	09:30 ~ 10:00	大泉義一 (横浜国立大学)  図画工作・美術科における教師の発話に関する実践研究 VI- 図画工作科, 算数科, 社会科の授業比較分析から-	片桐彩 (神奈川県立大和南高等学校)  映像メディア表現における協働学習と個人志向的傾向の関係	藤井康子 (大分大学)、 樋口和美(福岡教育大学)  教科書題材に英語活動を取り入れた図画工作科の授業開発	金子一夫 (茨城大学)  美術教育実践学の構想	細野泰久 (横浜国立大学大学院)  ソーシャル・プラクティスと教育の共進化- 二人称的かかわりから市民性の形成へ-	井上昌樹 (東京福祉大学短期大学部)  図画工作科表現領域におけるプログラミング教育の位置づけ		
2	10:05 ~ 10:35	奥村高明 (聖徳大学)、 宮本友弘(東北大学)、 一條彰子(東京国立近代美術館)、 池内慈朗(埼玉大学)、 東良雅人(国立教育政策研究所)  美術教育における学力分析- ルーブリックを用いた鑑賞学習の効果測定-	高橋文子 (東京未来大学)  老年教育における美術教育内容の研究 I- デイサービスにおける記憶画ワークショップ実践をもとに-	葉山登 (横浜創英大学)  インクルーシブ教育教材としての「草花こすり染め」	隅敦 (富山大学人間発達科学部)  若手教員の図画工作科授業力の向上を支えるために- 模擬授業を組み込んだシラバスへの改善の試みを通して-	箕輪住奈恵 (筑波大学)  美術文化を応用した表現活動の構想と実践	畑山未央 (東京家政大学)、 佐藤真菜(鳥取県立博物館)、 結城孝雄(東京家政大学)  教育普及ツールとしてのインタラクティブ・ディスプレイの意義- 展示室においてオリジナル作品とデジタル画像を往還・比較鑑賞できる環境設定の試みから-	赤木恭子 (熊本大学)  映像メディア表現における「対話性」と経験的な学修に関する一考察- 教材制作としての動画編集におけるイメージの変遷を中心に-	
3	10:40 ~ 11:10	佐々木宰 (北海道教育大学釧路校)  アジアの多文化社会における美術教育の役割- エスニシティの可視化-	花輪大輔 (北海道教育大学札幌校)、 三橋理穂(札幌市立星置東小学校)  既存の物語教材の読み聞かせと視覚情報が子どもの描画に及ぼす影響	牧野由理 (埼玉県立大学)  台北帝国大学における掛図の画工に関する研究	山下暁子 (和光大学)  教員養成課程における視聴覚教材の利用- 『絵を描く子どもたち』-	前沢知子 (横浜国立大学大学院)  「日常」における「原風景」の体験を通じた「みる」行為についての考察- 「自然保育のつばら」の実践から-	山田一美 (東京学芸大学)  デザイン思考と資質・能力	木村典之 (大分県立美術館)、 藤井康子(大分大学)  中学校美術科と国語科の教科融合型学習の研究- 県立美術館との連携による「移動美術館」の実践と鑑賞文の作成から-	市川寛也 (東北芸術工科大学)  日常とつながる鑑賞教育- 身近な地域の観察を中心に-
4	11:15 ~ 11:45	宇田秀士 (奈良教育大学)、 加舎章二郎(大阪府八尾市立曙川南中学校)  家庭用3D機器を用いた図画工作・美術授業題材> 開発のための基礎研究	長井理佐  メディア時代における鑑賞教育考- オルタナティブなイメージ経験の場づくりに向けて-	春原史寛 (群馬大学)  戦後日本における美術の難解性・有用性をめぐる言説の史的変遷と美術教育の関連に関する一考察	中村和世 (広島大学)  日米交流による異文化感受性を育む図画工作科の学習開発	長島春美 (東京都立田柄高等学校)  生徒に学ぶ校内パブリックアート制作の可能性	村田透 (滋賀大学)  子どもの造形表現活動における課題探究について- 小学生を対象とした「造形遊び」の題材より-	宮川紗織 (群馬大学)、 郡司明子(群馬大学)  子どもの生活をより豊かにするアート活動の考察- 地域に向けたBFAプロジェクトを通じて-	櫻井晋伍 (久留米信愛女学院短期大学)  日本画の鑑賞教育を通じた壁面構成の制作技能育成- 保育者養成課程における実践-

# 研究発表Ⅲ【第2日目 3月30日(金) 13:45~15:25】

	時間	A会場 (第1講義室)	B会場 (第2講義室)	C会場 (第5講義室)	D会場 (第6講義室)	E会場 (第7講義室)	F会場 (第9講義室)	G会場 (演習室2)	H会場 (環境教育演習室)
1	13:45 ~ 14:15	赤木里香子 (岡山大学)、 山口健二(岡 山大学)、金子 一夫(茨城大 学)、角田拓朗 (神奈川県立 歴史博物館)  明治期図画手 工教科書デー タベース構築 に向けた総合 的調査研究 (2)	小森千奈 (広島大学大 学院教育学研 究科)、三根和 浪(広島大学)  「平和に関す る題材」を活 用した美術教 育の検討ー平 和希求のため の美術教育の 役割と中学校 美術科での取 り扱いの一考 察ー	角地佳子 (大阪国際大 学短期大学 部)  乳児の描画に おけるイメー ジについて	竹内晋平 (奈良教育大 学)、橋本侑佳 (同志社中学 校)  美術の俯瞰的 理解を意図し た鑑賞授業に おける発問設 計ー学習構造 の階層化に基 づく試論ー	重村幹夫 (仁愛女子短 期大学)  幼児造形活動 における「見 立て」に関する 一考察	一條彰子 (東京国立近 代美術館)、奥 村高明(聖徳 大学)、寺島洋 子(国立西洋 美術館)、東良 雅人(国立教 育政策研究 所)  美術館の所蔵 作品を活用し た探求的な鑑 賞教育プログ ラムの開発ー フィンランド ・デンマーク 海外調査の 報告ー	萩原至道 (富山大学人 間発達科学部 附属中学校)、 江田希(富山 大学人間発達 科学部附属小 学校)、隅敦 (富山大学)、 鼓みどり(富 山大学)、上山 輝(富山大学)、 若山育代(富 山大学)、米崎 瑛美(富山 大学人間発達 科学部附属 幼稚園)  富山県産材 「積み木」を 用いた題材に 対する小学6 年と中学1年 の自己評価の 比較ー小学校 「立体」と中 学校「彫刻」 の「積み木で オブジェ」の 実践からー	鈴木紗代 (前橋市立第 六中学校)、住 中浩史(アー ティスト)、小 田久美子(ア ーツ前橋)、茂 木一司(群馬 大学)  アーティスト ・イン・ス クール(AIS) の挑戦ー美術 館×アーティスト ×中学生の 可能性とは ・実践内容 と今後の展望 ー
2	14:20 ~ 14:50	鷹木明 (京都造形芸 術大学)  美術・デザイ ンの扉を開く ための題材開 発の試みーコ ンセプチュア ルアートから 参加型アート への展開を参 照してー	新井馨 (奈良教育大 学附属中学 校)  「主体的・対 話的で深い学 び」のための 「3つの拡 張」ーICTを活 用した映像制 作実践の考察 を通してー	鈴木幹雄 (関西福祉大 学)  クレーフェル ト工芸繊維学 校における J・イッテンの 芸術教育と発 想法教育学に ついて	北村眞佐美 (花園大学)  子どもの絵の 見方のルー ブリックの開 発ー幼児の絵 を読み解く力 の向上を目指す 試みー	岩本航介 (福岡教育大 学大学院)  線材を用いた 空間表現と、 その鑑賞活動 の有効性につ いてー造形活 動の授業実践 を通してー	平野智紀 (内田洋行教 育総合研究 所、東京大学 大学院)、奥村 高明(聖徳大 学)、高橋紀子 (「美術検定」 実行委員会)  美術における 知識と思考・ 判断の関係ー 美術検定の統 計的分析ー	毛塚鮎美 (群馬大学大 学院)  多感覚性を生 かした鑑賞教 育の研究ーイ ンクルーシブ 教育を巡って ー	茂木一司 (群馬大学)、 木暮萌(群馬 大学)  ジェンダー・ LGBTQと美術 教育ーなぜ日 本の美術/教 育では難しい のか?ー
3	14:55 ~ 15:25	藤原智也 (愛知県立大 学)  美術科教育と 学習指導要領 の政治社会的 検討	長友紀子 (奈良教育大 学大学院)  美術科におけ る「主体的・ 対話的で深い 学び」を形成 するワークシ ョップ試案	大西洋史 (関西国際大 学)  図画工作科の 授業を通して みる教師のパ フォーマンス について	有田洋子 (島根大学)  戦後日本の教 員養成大学・ 学部における 学科目「美術 科教育」の整 備過程	郡司明子 (群馬大学)  美術教育にお けるアートの 身体論の構築	池田史志 (広島大学)  特別支援学校 で実施される 美術の指導困 難に関する研 究	正木智美 (横浜国立大 学大学院)  図画工作科の 授業における 「色」に関する 学習指導の 研究	長谷海平 (京都大学)、 筒井武文(東 京藝術大学)  教育方法とし ての動画製 作、その始ま り

2017年度 美術科教育学会リサーチフォーラム in 名古屋 2017.08.27 報告

## アートを通じた子どもの学びと地域社会との関わり

～コミュニティデザインの視点から構想するこれからの美術科教育～

清田哲男（岡山大学）、藤原智也（愛知県立大学）

### 【開催概要】

開催日：2017年8月27日(日) 11時~17時

場 所：ウインクあいち 12階

### 1. 企画趣旨

政治や経済からもたらされる社会不安から、地域コミュニティの重要性への気付きが広がってきている。地域コミュニティの形成原理には、感情を介した人と人、人と場所との結びつきが深く関わるが、美術科教育ではそれらの繋がりを創造する実践がなされてきた。そこで今回、コミュニティデザイナーとしての実践を全国で展開している山崎亮氏を招き、子どもの地域参画を目指した教育実践を行ってきた中学高校の美術教師の事例発表を合わせて議論した。

### 2. 特別講演・実践発表・基調提案

山崎亮氏（Studio-L、東北芸術工科大学）からは、地域のコミュニティデザインの重要性についての特別講演を聴講した。

山崎氏からは、社会の課題が見えていても解決する方策が分かりにくい21世紀にあって、児童生徒が地域との対話から感じた課題に対する「児童生徒の新しい発想」を肯定できる雰囲気をつくることの重要性について語られた。肯定される経

験の繰り返しが、一度地域を出たのち、もう一度、その地域で活躍したいと思う原風景を作り出す。

例として、岡山県笠岡諸島での、児童の提案を大人が実現する離島振興計画について、香川県観音寺街中再生計画等が紹介された。様々な地域の課題を、今まで通り、制度や補助金を使って解決する「正しさ」だけでなく、「楽しいか、美しいか、愉快か」等の人の心が動くような、美術の授業で涵養される感性に訴えかける力が、地域全体を動かす。クリエイティブに解決されるアイデアを生み出す有効性は、心を動かす力であり、その力を高めることを美術教育が担っていることの示唆があった。



次に、高橋承一氏（岩倉総合高等学校）、田中真二郎氏（西仙北中学校）、小林大志氏（高槻市教育委員会）による実践発表が行われた。

三つの発表は、学校の中の間集団での学びからさらに一步、大きな地域社会に出て、美術教育での学びを実践するものであった。ただ、三つの発表での、生徒の学びの目的は異なり、美術教育の地域の広がり可能性が感じられた。

高橋氏は、生徒の活動に対しての社会や大人からの評価から、創造することの価値への主体的な気づきを目的に、総合学科高校の特色を生かしたカリキュラムとして有機的な繋がりのある題材を発表された。

田中氏は、生徒の発案による和菓子や町屋のリノベーションから、地域文化が新たに動き始める実践で、山崎氏の講演にあった生徒の提案に対しての、地域による肯定の事例としても位置付けられよう。

小林氏は、学校教育活動全体と、商店街などの地域の生活空間を結ぶメデュームとして、美術の授業を捉えたり、美術教員が意識したりすることの重要性について実践事例を紹介しつつ述べられた。

これらを受けて、藤原智也（愛知県立大学）による基調提案があった。まず、20世紀末からの新自由主義社会構造改革の概略について、美術科の授業数縮減、社会の格差化貧困化と共同体空洞化が関連付けて示された。次に人間関係資本（Social Capital）研究に基づき、国家政府、市場経済の不安定化に対して、市民社会とそれを構成する地域社会が機能するようになる必要があるとの指摘があった。さらに、感情を介した社会的な結びつきを創造す

る美術の役割に関わって、アートの進化的な獲得や認知機能の面からの知見が紹介された。そして、美術が社会的な結びつきを形成する機能があることを広く俯瞰し、まちづくりや医療、福祉を含めて、地域のコミュニティデザインの視点から美術科教育を構想する意義が論じられた。

### 3. パネルディスカッション

最後に、本企画のコーディネータである清田哲男（岡山大学）の司会のもと、パネルディスカッションを行った。そこでは、はじめに清田から示された二つの視点について山崎氏・三名の実践発表者・藤原の五名で討議を行った。一つは「なぜ、アートを通して地域社会と関わる必要があるのか」、もう一つは「生徒は地域社会に『関わった』のか、『関わらされた』のか」である。そこでは、内面の表出である表現活を行う児童生徒が社会の中で生活しているならば、彼らは「関わりそのもの」であり、「関わり」を考えることは児童生徒を考えることになることが討議の中で見えてきた。

### 4. 総括

参加者数58名。美術関係以外からの参加として、福祉専門職、医学研究者、まちづくりNPO職員らがみられた。美術教育を多方面、多領域から検討する契機として今後の継続による更なる成果が期待できる。

# 本部事務局より

## ■第40回学会滋賀大会の総会での委任状について

平成29(2017)年度総会は、第40回美術科教育学会滋賀大会の2日目、2018年3月30日(金)の11時50分より12時40分までの時間帯で開催予定です。会則で定めていますように、総会は、学会の事業及び運営に関する重要事項を審議決定する学会の最高議決機関であり、会員の5分の1以上(委任状を含む)の出席がなければ成立しません。やむを得ない事情で総会に欠席される方は、同封の委任状(はがき)に必要事項を記入、押印の上、3月21日(水)までに投函してください。

## ■2018会計年度の会費納入をお願いします。

学会運営は、会員の皆様の会費により運営されています。2018会計年度は1月より12月までですが、2018年8月末から9月初旬の理事会にて会員名簿の報告・承認をしますので、7月31日までに納入いただくようお願いいたします。また、2017会計年度までの学会費未納の方は、至急全額納入をお願い致します。皆様の会費により学会誌刊行、3月の大会運営、リサーチフォーラムなどの運営が行なわれています。ご自分の各年度の年会費納入状況については、以下の「会員情報管理システム」にログインすることにより確認が可能です。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/AAE>  
なお、納入状況に疑問がある場合には、本部事務局支局(ガリレオ社)アドレスにお問い合わせ下さい。

### 留意事項

次年度学会誌(第40号)への投稿並びに次年度大会(第41回大会)での口頭発表に際しては、投稿や申込みの時点で以下の2つの条件を満たしている必要があります。

- ①会員登録をしていること
- ②当該年度(2018会計年度)までの年会費を全て納入済みであること。

\* 会費を2年間滞納した場合は、会員資格を失います。

## ■会費振り込み口座名、番号

同封の振込用紙、郵便局にある払込用紙、銀行等からの振替により、下記の新しい口座に納入してください。

銀行名: ゆうちょ銀行

口座記号番号: 00140-9-551193

口座名称: 美術科教育学会本部事務局支局

通信欄には、「2018会計年度会費」等、会費の年度および会員ID番号を記入してください。また、ゆうちょ銀行以外の銀行からの振込の受取口座として利用される場合は下記内容を指定してください。

店名(店番): 〇一九(ゼロイチキユウ)店(019)

預金種目: 当座 口座番号: 0551193

## ■大学院生等への会費減額措置(申請は毎年必要)

大学院生等は、所定の手続きにより、年会費を半額(4,000円)に減額する措置を受けることができます。会費減額措置を希望する大学院生等は、毎年5月中に各自、申請手続きをすることになっています。申請しない場合は、減額措置を受けられません。未だ手続きがお済みでない方は、学会ウェブサイトをご参照ください。

[http://www.artedu.jp/bbg4um0dy-8/#\\_8](http://www.artedu.jp/bbg4um0dy-8/#_8)

## ■学会誌第39号に投稿され、掲載負担金について公費払いを予定している会員の皆様へ

学会誌第39号に投稿された会員で、掲載が許可された後、掲載負担金について公費払いを予定している会員の皆様にお知らせ致します。公費払いとは、大学研究費や科学研究費補助金などで支払うことをさしています。掲載負担金の請求は、掲載ページ数が確定した時点(3月初旬を予定)でお伝えします。本部事務局支局からの請求書にしたがってお振込みください。ただし、各所属先が求める形式で請求書類を別途用意しなくてはならない場合は、そこから本部事務局支局と相談・交渉し始めたのでは、手続きが間にあわないことがあります。以下の留意点を読み、各所属先で前もってご確認いただき、相談・交渉するなど今から準備を始めて下さい。

### <留意事項>

1. 原則として、必要な書類は、投稿者自身で作成いただき、書類等に捺印が必要な場合は、本部事務局支局までお送りください。作成いただく書類は、本部事務局支局からの「振込負担金請求書」以外の書類全てとなります。また、送付前に事前に以下までご連絡下さい。

2. 投稿者自身による「立替払い」を原則と致します。

3. 上記1, 2を原則としますが、大学事務局と本部事務局支局が直接やり取りをしなければいけないケースがあります。この場合には、以下まで、手続きの概要、事務担当者の連絡先などをメールで知らせて下さい。

### 美術科教育学会 本部事務局支局

〒170-0002 豊島区東鴨1-24-1 第2 ユニオンビル4 階

(株)ガリレオ 東京オフィス 担当者 和久津 君子氏

[ 窓口アドレス ] [g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp)

迅速な手続きのため、ご確認及びご準備について、ご協力をお願い致します。

## ■住所・所属等変更、退会手続き

住所、所属先等に変更のあった方は、すみやかに本部事務局支局までご連絡ください。退会を希望される場合は、電子メールではなく、必ず文書(退会希望日を明記してください)を郵送にてお送りください。あわせて、在籍最終年度までの会費納入完了をお願いします。

## ■「オンライン名簿(検索)システム」

学会HP(<http://www.artedu.jp>)左のメニュー「会員名簿」をクリックして「名簿(検索)システム」

[https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/member\\_search/AAE](https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/member_search/AAE)にお入り下さい。公開項目は、もちろん各会員が決定できますが、会員相互の交流のために、所属先住所、メールアドレスなど可能な範囲での登録をお願いします。

## 美術科教育学会 本部事務局

■ 聖心女子大学 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心女子大学文学部

水島尚喜(代表理事) [mizusima@u-sacred-heart.ac.jp](mailto:mizusima@u-sacred-heart.ac.jp) TEL 03-3407-5811

■ 東京学芸大学 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系

相田隆司(総務担当副代表理事/本部事務局長/庶務・会計・規約) [t-aida@u-gakugei.ac.jp](mailto:t-aida@u-gakugei.ac.jp) TEL 042-329-7594

西村徳行(学会通信・学会名簿・会費管理) [nishimur@u-gakugei.ac.jp](mailto:nishimur@u-gakugei.ac.jp) TEL 042-329-7608

笠原広一(本部事務局運営委員/学会通信) [kasahara@u-gakugei.ac.jp](mailto:kasahara@u-gakugei.ac.jp) TEL 042-329-7610

■ 横浜国立大学 〒240-8502 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2 横浜国立大学教育学部

大泉義一(ウェブ・メール配信) [oizumi@ynu.ac.jp](mailto:oizumi@ynu.ac.jp) TEL045-339-3453

■ 三重大学 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 三重大学教育学部

上山 浩(ウェブ・J-Stage) [ueyama@edu.mie-u.ac.jp](mailto:ueyama@edu.mie-u.ac.jp) TEL 059-231-9280

## 美術科教育学会 本部事務局 支局

■ (株)ガリレオ([www.galileo.co.jp](http://www.galileo.co.jp)) 東京オフィス 〒170-0002 豊島区東鴨1-24-1 第2 ユニオンビル4 階

(担当者 和久津君子) TEL: 03-5981-9824 FAX: 03-5981-9852